

## 新宿駅西口での総がかり行動緊急抗議行動での藤本発言文

ロシアプーチン大統領は、2月21日に、ドネツク、ルガンスクの両人民共和国の独立を承認するとしました。

ドネツク・ルガンスク地域を、ウクライナ領とした、2014年の「ミンスク合意」から、10年もたたない。ドイツ、フランス、ウクライナ、そしてロシア自らが結んだ国際的合意を、力を持って、武力を持って一方的に破棄する態度は、これまで、世界が一つ一つ積み上げてきた国際秩序を、破壊する行為以外の何物でもありません。

ロシア軍は、24日には、ウクライナの首都キエフを始めとして各地の軍事施設へのミサイル攻撃や空爆を行い、地上部隊をウクライナ国境を越えて展開しています。国際社会の声を無視した暴挙を、決して許すことはできません。

プーチン大統領は、ウクライナ国内のロシア系住民を守る「自衛のための侵攻」であると主張しています。しかし、戦争は必ず「自衛のためを持って始まる」、歴史はそう語っています。

1939年9月1日、独ソ不可侵条約の下で、ナチスドイツが行ったポーランド侵攻は、ポーランドによる迫害されるドイツ人を守るという理由でした。ロシア人はこれを忘れてはなりません。なぜなら、その17日後、旧ソ連はドイツ同様にポーランドに侵攻したからです。

1941年12月8日、日本が米国との先端を開く、真珠湾攻撃。そのときの理由は、「自存自衛」。日本が、米英蘭などの連合軍から、自力でその存立を維持し、自国を防衛すること。自存自衛は大東亜共栄圏とともに戦争遂行の理由に掲げられた言葉でした。

敗戦後、日本国憲法が国会に上程されたとき、吉田茂首相は、「戦争放棄の規定は、直接に自衛権を否定してはいないが、第9条2項において一切の軍備と国の交戦権を求めない結果、自衛官の発動としての戦争も交戦権も放棄したのです」と述べて、その後「近年の戦争は、国家防衛権「自衛」の名において行われた」と述べているのです。

私たち日本人は、このことを決して忘れてはなりません。そして、声を上げてロシアの暴挙に立ち向かう覚悟が必要だと思えます。それは、日本の責任なのです。日本社会が、決してこれまでの轍を踏むことなく、平和への声を上げていかななくてはなりません。

プーチン大統領は、「ロシアは世界で最強の核保有国の一つであり、我が国への攻撃が侵略者に悲惨な結果をもたらすことは、疑いがない」と述べ、核兵器使用をもって他国を威嚇しています。

2021年1月、国連で「核兵器禁止条約」が発効しています。核兵器が非人道的兵器であること、その保持や使用すべてが禁止されること、核の時代は、終わろうとしているのです。このような発言を軽々しく行う人間に、一国の指導的役割を与えてはいけません。ロシアが、この発言を内政干渉というならば、甘んじてその言葉を受け止めようではありませんか。

唯一の戦争被爆国日本の被爆者は、「三度許すまじ原爆を」の言葉を掲げて、反核運動にその身を捧げてきました。プーチン大統領の発言は、決して許されるものではないはずです。

ウクライナの首都キエフでは、戦地に向かわざるを得ない予備役の兵士が、父母と、子どもたちと、最愛の人と別れを告げるシーンを、報道各紙は伝えています。戦争で死んでいくのは国の指導者ではありません。犠牲者は、常に名もなき草莽の民、無辜の市民なのです。プーチンは、そして世界中の指導者は、そのことを忘れてはならないのです。

戦争をさせない1000人委員会は、戦争させない！9条壊すな、総がかり行動実行委員会は、ロシアの蛮行を許すことなく、あらゆる場面で、決して揺るぐことのない、戦争反対の声を上げ続けていきます。その覚悟を表明して私からの発言といたします。